

2025年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ 映像・現代文化論 ）
出題の意図	<p>問題Ⅰ 映像・現代文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。</p> <p>問題Ⅱ 映像・現代文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。</p> <p>(A) 日本近代文学における女性作家をめぐる考察に関する問題 (B) デジタル時代における映画の視聴・分析のあり方をめぐる考察に関する問題</p>

2025年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 映像・現代文化論 全8枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 8 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

- ・ 解答は問題 I と問題 II について、別々の解答用紙に記入すること。
 - ・ 問題 II は、A・B の中から一つを選んで解答すること。
-

問題 I

次の 1～6 の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各 400 字程度）。

1. 明治 40 年代の文学の思潮について説明しなさい。
2. 「内向の世代」の文学の特質について説明しなさい。
3. 『女人芸術』とプロレタリア文学の関わりについて説明しなさい。
4. 1950 年代のフランスで若き批評家たちがアルフレッド・ヒッチコックやハワード・ホークスを映画作家として称揚したことについてコメントしなさい。
5. 大島渚の映画の特質について、複数の作品を挙げて説明しなさい。
6. 日本のテレビドラマ（インターネット配信のものも含む）の現状についてコメントしなさい。

問題Ⅱ A

次の文章は飯田祐子『彼女たちの文学』（名古屋大学出版会、2016年）の序章「〈女性作家〉という枠組み」の一節である（設問の都合により、一部省略した）。(1) この文章の内容を、要約しなさい（250字程度）。(2) 被読者性と読者の複数性について、問題文との関連性に留意しつつ、具体的な作家・作品を挙げて論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 飯田祐子『彼女たちの文学』、名古屋大学出版会、2016年、11-17頁。

問題Ⅱ B

次の文章は堀潤之「映画の新たな生——デジタル時代の映画分析」（『映像学』第108号、2022年）の全文である（設問の都合により、一部省略し、表現を改めた）。(1) この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。(2) デジタル時代における映画の鑑賞・分析のあり方について、問題文との関連性に留意しつつ、具体例を挙げて論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 堀潤之「映画の新たな生——デジタル時代の映画分析」、『映像学』第108号、2022年8月、21-25頁。

